

エネルギー地産地消プロジェクト

プロジェクトによるSDGs達成への貢献

武蔵野市エネルギー地産地消プロジェクトは、持続可能な開発目標（SDGs）の17の目標のうち、特に5つの目標達成に貢献します。



持続可能な開発目標（SDGs）とは、平成27年の「国連持続可能な開発サミット」で採択された、世界共通の目標のことです。

持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のために、全17の目標（ゴール）と169のターゲットが掲げられています。各国政府や国際機関のほか、地方公共団体や民間事業者など、様々なステークホルダーがSDGsの達成に向け取り組みを進めていくことが求められています。

武蔵野市 環境部

環境政策課
ごみ総合対策課

〒180-8777 東京都武蔵野市緑町2-2-28
TEL 0422-60-1841 FAX 0422-51-9197
E-Mail sec-kankyoku@city.musashino.lg.jp

プロジェクト 幹事企業
構成企業

NECネットエスアイ株式会社
日本環境技研株式会社



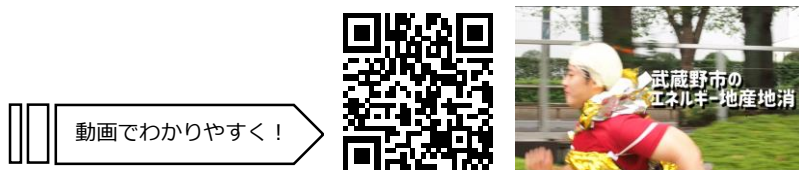
豊かな環境を次世代へ

～ 武蔵野市は新たな一歩を踏み出します ～

～ エネルギーの「創・蓄・省・賢（スマート）利用」～ 武蔵野市エネルギー地産地消プロジェクトとは

武蔵野クリーンセンターのごみ発電を核として、周辺の公共施設と市立18小・中学校とを連携させ、地域全体でエネルギーを融通します。

創エネ **蓄エネ** **省エネ** を組み合わせ、**スマート** にエネルギーの需要・供給の最適な運用を図ることで、地域全体のCO2排出量の削減を目指します。



動画でわかりやすく！

CO2排出量の削減

プロジェクトにより年間約1,000tのCO2削減を見込んでいます。これは市立小・中学校の年間CO2排出量平均の約6校分にも相当します。

スマートコミュニティの実現

エネルギーを地域単位で賢く管理する社会が求められています。プロジェクトは環境省の補助採択を受け、モデル事業・促進事業として実施しています。

災害に強いまち

地産地消の自立型エネルギーマネジメントシステムを構築し、災害時においてもエネルギーを供給できる体制を作ることで、都市の強靱性を高めます。

プロジェクトを支える技術



ごみ発電／ガスコジェネ ＜クリーンセンター＞

創エネ

スマート

ごみを燃やした余熱で蒸気と電気を創り、周辺施設へ供給しています。エネルギー効率が高く災害時にも強いガスコジェネレーション発電設備も備えています。



CEMS ＜クリーンセンター＞

スマート

省エネ

クリーンセンターと周辺施設の電気使用量を監視し、ごみ発電を適切に制御するプロジェクトの頭脳です。蓄電池の充電・放電のコントロールも一括で行います。

CEMS：Community Energy Management Systemの略。地域のエネルギーを管理するシステム



BEMS ＜総合体育館＞

スマート

省エネ

総合体育館はエネルギー消費の大きい施設です。BEMSを導入しエネルギー使用量を監視・制御し、無駄なく効率的に運用することで消費電力を削減します。

BEMS：Building Energy Management Systemの略。ビル等のエネルギーを管理するシステム



省エネ改修

省エネ

＜市役所・総合体育館・むさしのエコreゾート＞

照明と空調はエネルギー消費の割合の高い設備です。LED照明化や省エネ性能の高い空調機へ更新することで、従来よりも消費電力を削減します。



自己託送／クリーンな電力調達

スマート

＜市立小・中学校・クリーンセンター＞

電力会社の送電線を利用して、クリーンセンターの夜間電力を市立小・中学校に送ります。またこれらの施設の電力購入に際しても環境性能の高い電気を調達します。



太陽光発電 ＜市役所・クリーンセンター・むさしのエコreゾート・市立小・中学校＞

創エネ

降り注ぐ太陽光から、CO2を発生させないクリーンな電気を創ります。本市は市立小・中学校18校の全てに太陽光発電を設置しています。



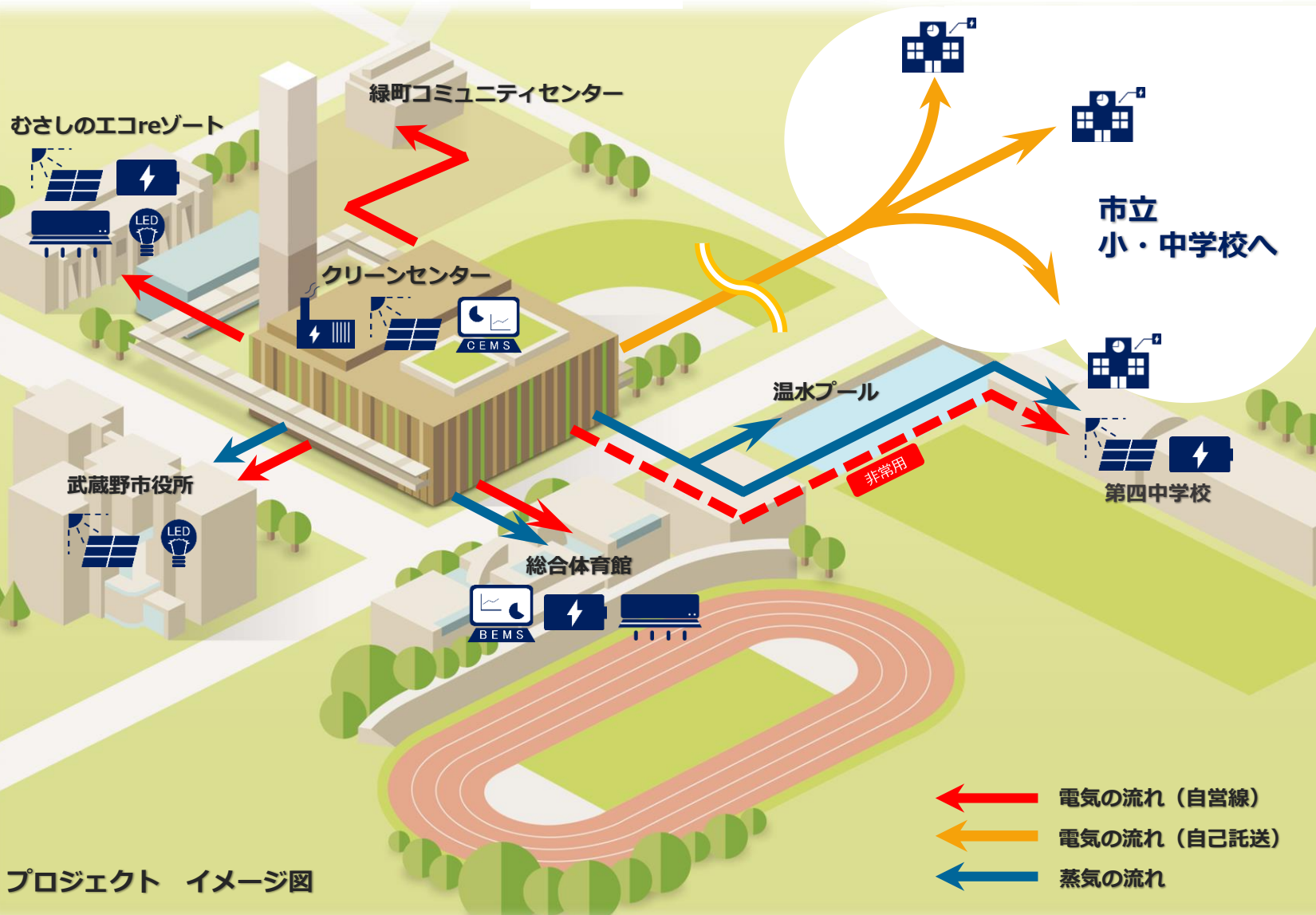
蓄電池

蓄エネ

スマート

＜総合体育館・むさしのエコreゾート・第四中学校＞

ごみ発電の夜間余剰電力を充電し、電気を多く使う昼間に放電して活用します。必要な時に賢く電気を利用することでエネルギーの地産地消割合を向上させます。



プロジェクト イメージ図